

# News Release

報道関係者各位



令和7年4月23日(木)

長久手市文化の家

館長 生田 創

## 行政職員が地域と一緒にもしろいを 求め続けた劇場の25年を公開 長久手市文化の家25周年記念誌を発行しました

長久手市文化の家（以下、「文化の家」とする）は、開館した平成10年から25年をまとめた「長久手市文化の家25周年記念誌」を発行しました。文化の家建設当初から文化の家が取り組んできたことを「人」や「地域とのつながり」を中心に25年間を振り返る内容になっています。自治体直営劇場のひとつのモデルケースとして、地域の人だけではなく、劇場関係者や行政職員、多くの人に読んでいただきたい内容となっています。また、本記念誌の印刷費には、クラウドファンディングで集めた資金（約130万円）を活用しています。

### 25年間、行政直営劇場として走り続けてきた理由に迫る

公立劇場は、設置自治体（都道府県、市町村等）が直接管理運営を行う直営劇場と民間企業等に運営を委ねる指定管理者制度を採用している劇場があります。効率的な施設運営や経費の削減などのメリットがあるため、多くの劇場が指定管理者制度を採用しています。そのような状況の中、文化の家は1998年開館以来、長久手市直営の劇場として管理運営しています。本誌は、25年にわたり市民やアーティストと協働しながら様々な事業を展開し、高い稼働率を継続してきた理由が記されています。

**参考** 長久手市文化の家 ※詳細は5ページ以降にも記載しています。

長久手市文化の家は、愛知県長久手市にある公立文化施設。平成10年7月15日、長久手町文化の家として開館。平成24年、市制施行に伴い現在の名称となった。2つのメインホールがあり、収容人数はそれぞれ、森のホールは717席（車椅子6）、風のホールは298席（車椅子6）となっている。大きさに合わせた規模のイベントが行われており、講演会や音楽コンサートが行われている。その他にも展示室や舞踊室、レストランなどを備える。はなみずき通駅から徒歩7分。

お問合せ



長久手市文化の家  
NAGAKUTE Cultural Center

長久手市文化の家 担当 野田悠子  
〒480-1166 愛知県長久手市野田農201番地  
TEL 0561-61-3411/FAX 0561-61-2510  
MAIL [bunka@nagakute.aichi.jp](mailto:bunka@nagakute.aichi.jp)  
WEB Site <https://bunkanoie.jp>  
【改修工事期間中のため通常と異なる勤務体制となっています】  
電話対応時間 開館日の8:30~17:15  
※シフト勤務のため、担当者が事務室不在の場合があります。



## 文化の家は全国的にも珍しい直営劇場

(公社)全国公立文化施設協会の調査によると、全国の劇場・音楽堂等において、地方自治体が直営で管理運営を行っている割合は、36.9%です。さらに、文化の家と同様に文化芸術系主催事業を21公演以上実施している劇場・音楽堂等においては、直営の割合がわずかに16.6%となっています。

この16.6%には、都道府県や政令指定都市等、長久手市よりも規模が大きい自治体も含まれていると推察されます。

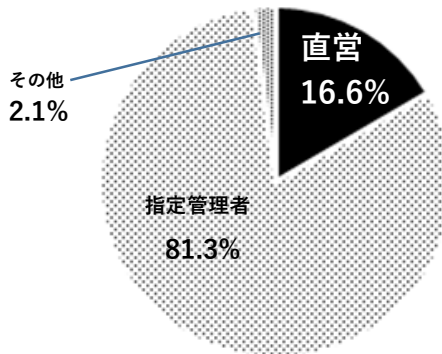
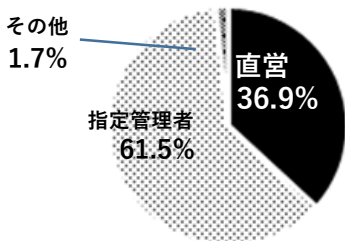
人口6万人程度の自治体で劇場を直営で管理運営し、開館当初から年間100本以上の自主事業を展開し続けているのは長久手市以外にはあまり事例がありません。

### 参考 劇場・音楽堂等における管理運営形態

「令和6年度調査 劇場・音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」  
発行：(公社)全国公立文化施設協会

文化芸術系主催事業  
年間21公演以上 (n=241)

全体 (n=1,259)



## 長久手から世界まで全方向へ展開する自主事業

文化の家はこれまで、年間100本以上の自主事業を展開してきました。内容は多岐にわたり、本格的なホール公演があれば、講座のような生涯学習的なものもあります。また、市民が主体となって運営するボランティア団体や合唱団、劇団などもあり、多角的に市の文化芸術活動の下支えをしています。

その自主事業の裏づけとなっているのが、文化の家の開館時に策定した文化マスタープランです。愛知県立芸術大学との連携や、市内に多く存在するアーティストと協力することにより、本格的なオペラ公演や演劇祭、企画展の実施、劇場の契約アーティストである創造スタッフ制度など、多岐にわたっています。文化マスタープランにおいて重要な点は、文化の家が単に地域のアーティストの発表の場になるだけでなく、その専門性を若手芸術家の育成や市民との交流や自発的な活動に生かすよう求められていることです。

市内すべての小中学校へ出張公演を行う「であーと」や、実行委員形式でつくりあげる音楽の祭典「おんぱく」など、一人ひとりのアーティストや市民と向き合いながら、25年の間に信頼関係を築いてきました。本誌では、制作してきたさまざまな事業についてもご紹介しています。

## 開館から25年間、継続のカギは専門性と公益性のバランス

文化の家は長久手市直営劇場のため、企画制作に携わるスタッフは長久手市職員（公務員）です25年間で文化の家職員に勤務した市職員はおよそ80人に及びます（非正規職員（会計年度任用職員等）を含めると100人以上）。

文化の家で勤務する市職員は、一般行政職員と、原則文化の家以外への異動がない専門職員（音響、照明、企画制作等）の両方が在籍しています。一般行政職員は異動後、文化の家での柔軟な発想力を生かして、市役所の様々な部署で活躍しています。

こうした状況の中、文化の家が多岐にわたる自主事業を展開し続けられたのは、一般行政職員と専門職員や創造スタッフ、地域のキーパーソンとの協働作業があるからです。本誌では、どのような協働作業をしてきたか現場の声が収録されており、全国の公立劇場運営やまちづくりに悩む人たちのヒントになることを望んでいます。

### 寄稿

## 公共ホールでどんな公演を行うべきか？

小室敬幸（音楽ライター）

（中略）リスクを背負ってまで、「どうしても聴いてほしい！」「聴けば必ずや感動するはず！」……そんな願いが“名演への招待”の過去の企画一覧を眺め返していると、時空を超えて伝わってきます。具体的に挙げてみましょう。

（中略）

こうして過去のシリーズを追っていくと、すべての出演者がその分野におけるフロントランナーであり、真に実力を持った音楽家しかいないことに気付かされます。2001年～2023年にかけて20年以上、スタッフの顔ぶれが変わったとしても“文化の家”の審美眼は揺らいでいないのです。

（中略）

大事なことなので繰り返しますが、そうした実力派を招聘しても座席を埋めることは容易なことではありません。人気と実力は全く別のパラメーターなものですから……。にもかかわらず一貫して本当にいま聴く価値のある音楽家を呼び続けているというのは、志が高いだけでも実現はできず、地元の人たちにその価値が伝わるはず！という信頼関係なしに企画は成り立たないのです。

もちろん広報は可能な限り、あらゆる手段を駆使して努力しています。人の入れ替わりがあっても献身的に仕事をしているスタッフたちの存在なしには、これほど素晴らしい企画を20年以上も続けられません。そのことが地元のみならずもっと伝わればよいのに……。おせっかいながら、東京という外野から見ても心底そう思います。長久手市文化の家で「名演への招待」が続いてきたことを、もっと誇った方がいいですよ。

本誌第2章6「世界の名演を発掘する 名演への招待シリーズ」より抜粋  
（本文64・65ページ）



### 小室敬幸（こむろ・たかゆき）

東京音楽大学の作曲専攻を卒業後、同大学院の音楽学研究領域を修了。これまでに作曲を池辺晋一郎氏らに師事している。「これまでにない音楽講座」をモットーに、2022年から文化の家で連続講座を実施。クラシックやジャズの他、ゲーム音楽や映画音楽、演劇と音楽など、ジャンルを横断した多彩な講座を展開。わかりやすくおもしろいレクチャーから、いずれの回も好評を博しており、回を重ねるごとにリピーターが増加している。

# 行政職員が地域と一緒にもしろいを 求め続けた劇場の25年間を公開

長久手市文化の家25周年記念誌を発行しました

4/6

## 書籍概要

### タイトル 文化の家25年の軌跡

常に新しい「それ、もしろいね」を求めて  
長久手市文化の家25周年記念誌



**編集** 長久手市文化の家25周年記念誌編集委員会

**発行** 長久手市・長久手市教育委員会

**デザイン** 榊原健祐  
(長久手町文化の家2代目学生デザイナー、  
Iroha Design)

**規格** 幅190mm×高さ250mm 156ページ

**価格** 本体2,000円(税込)  
※購入希望の方は、文化の家へお問い合わせ  
ください。

## 収録内容

### 第1章 文化の家の原点

1998年7月15日に開館した文化の家は、25年立った今もなお色褪せず、いつでも人の集う居場所になりました。本章では文化の家の活動の原点に立ち返り、創設当時を知る方たちからのお話を収録しました。

### 第2章 文化の家がつくってきたもの

文化の家では、開館時に策定した『文化マスタープラン』に基づき、これまでにたくさんの公演を制作してきました。世界的なアーティストに出会う機械をつくるとともに、近隣に住むアーティストとも積極的に制作を行っています。また、市民の方とも積極的に関わり、市内の文化芸術活動を支援してきました。本章では、文化の家から生まれた代表的な事業を取り上げ、その裏側をご紹介します。

### 第3章 文化の家で働く人々

文化の家では、契約アーティストの「創造スタッフ」制度をはじめとして、アーティストと職員が一緒になって活動をしています。本章では、普段は表に見えないような、文化の家で働くアーティストと職員の姿をお見せします。

### 第4章 文化の家の到達点 25周年記念事業

2023年度に開館25周年を記念し、25年経った今だからこそできる企画を打ち出しました。文化の家の自主公演の柱である音楽と演劇の二大公演、長久手の文化がつまった「25th祭り」、これから文化の家が残していくべきアーカイブについて考えたシンポジウム。これらの記念事業について最後にご紹介します。

## ご取材について

本件に関して、文化の家館長生田創、記念誌編集主担当スタッフ山本宗由にご取材いただけます。その他記念誌関係者のご取材をご希望の場合は可能な限り調整いたしますので、まずはご一報ください。

## 施設概要

長久手市文化の家は、市内の文化活動の拠点となるべく1998年（平成10年）7月15日に開館しました。舞台公演から式典、集会まで幅広く対応できる可変式の「森のホール」とシンプルでオーソドックスな形式の「風のホール」、さらに実習・練習機能や情報・交流機能を備えた芸術文化空間「アトリビング」からなる総合文化施設です。

文化の家の命名は、“市民全体の「家」となってほしい”、“市民が「我が家」を感じるような親しみ深い施設になってほしい”という願いと、20世紀中頃フランスで起こった地方からの文化発信運動「文化の家運動」に因んでいます。開館以来、長久手市文化マスタープラン（1998年第一次、2007年第二次、2018年第三次策定）に基づき行ってきた自主事業の数々の取組は、地方自治体の文化行政における先駆けとして全国的に評価され、2006年には愛知県内の施設として初めてJAFRAアワード（総務大臣賞）を受賞しました。

施設概要	所在地	480-1166 愛知県長久手市野田農201番地
	敷地面積	24,902.89㎡
	建物面積	7,894.54㎡
	延床面積	17,488.09㎡
	構造種別	SRC造、RC造及びS造
	階数	地上3階、地下2階
主要施設	ホール	森のホール（384～717席） 風のホール（194席又は292席）
	アトリビング	光のホール（82席）、展示室 音楽室、音楽スタジオ、小音楽室 舞踊室、美術室、食文化室、多目的室 暗室、会議室（5室）、講義室（2室）、和室（2室）
森のホール	コンサートや演劇、舞踊といった舞台公演から式典、集会まで幅広く対応することができる最大717席のホールです。客席は、舞台が見やすいように馬蹄形になっており、舞台と客席の一部が可動式です。プロセニウムアーチが前後に移動することで、さまざまな舞台空間を作り出すことができます。	
風のホール	292席の固定席を持つシンプルでオーソドックスなホールです。主に演劇、舞踊対応のホールですが、プロセニウムアーチの後ろに可動式の音響反射板を備え、小規模コンサートやピアノ発表会などにも利用することができます。音響反射板を利用した場合、客席は194席になります。	

## 沿革

平成10年	7月	長久手町文化の家開館
平成11年	8月	第1回長久手地域演劇祭開催
平成12年	9月	第1回長久手国際オペラ声楽コンクール開催
	11月	入館者100万人達成
平成13年	4月	川上實館長就任
平成17年	6月	エデュケーションプログラム「であーと」開始
平成18年	7月	ガレリアコンサート開始 ステージ・ラボ（長久手会場）開催
平成19年	1月	JAFRAアワード（総務大臣賞）を愛知県内で初受賞 入館者500万人達成
	11月	ながくてアートフェスティバル開催
平成20年	10月	開館10周年記念公演 秋吉敏子ジャズトリオ公演開催
平成24年	1月	市制施行、長久手市文化の家となる
	7月	coba produced 長久手応援ソング4曲初演
平成27年	10月	情報誌「ハレとケ」vol.1刊行
平成29年	2月	大規模改修工事（2～6月）
	6月	リニューアル・オープン内覧会 オフィス改革（フリーアドレス導入）
	7月	リニューアル記念公演 川上ミネ ピアノ&トークコンサート with サンドウィッチマン開催
平成30年	3月	文化芸術マスタープラン策定（第三次）
	4月	市民館長就任（広中省子） 入館者1,000万人達成
平成31年	4月	フランチャイズアーティスト制度開始 ふくし（社会包摂）事業開始
令和元年	12月	アーカイブ・プロジェクト開始
令和2年	3月	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため臨時休館
	6月	感染症対策を講じた上で、利用再開
令和3年	4月	芸術を活用した他課連携開始
令和4年	10月	長久手市と東京大学先端科学技術研究センター（先端アートデザイン分野）が連携協定締結
令和5年	7月	開館25周年記念公演「長久手の音を紡ぐ～川上ミネピアノコンサート」開催
	9月	開館25周年記念公演「どうした長久手～九人の武将幻想伝」開催